

# 翔鸞幼稚園だより

令和4年11月1日 京都市立翔鸞幼稚園 園長 村山 得太郎



## 運動会を終えて

日に日に秋も深まり、肌寒い日が多くなってきました。ただ、日中は暖くなる日もあり、寒暖の差が激しく、体調を崩しやすくなる時期です。大人も子どもも基本的な生活習慣を守って、健康に過ごしましょう。

さて、先日行われました運動会、ご参観いただきありがとうございました。子どもたちは、この日に向けて運動会ごっこを楽しみながら、それぞれのプログラムについて先生たち



と一緒に取り組んできました。子どもたちは、本番もその成果を十分に見せてくれました。ひかり組の「どうぶつじまであそぼう」やにじ組の「ムシムシランドにレッツゴー!!」では、日頃の遊びの中でイメージをもち、それを膨らませながらさまざまな遊びを先生たちと作ってきました。そして、その遊びをもとに、さらに表現遊びや運動遊びを取り入れ、先生が子どもたちの様子をみながら、試行錯誤を繰り返し、他のクラスの先生たちとも相談して、練り上げてきたものです。最初から台本などがあるわけではなく、子どもが楽しめるように、やりたくなるように先生が工夫しながら形を整えていきました。詳しくは各クラスのお便りと「運動会のしおり」をご覧ください。そら組では、「紅白リレー」「竹馬チャレンジ!」「しっぽとり」に取り組んできました。竹馬は一人で頑張るところも多いのですが、みんなで励ましあい、刺激しあってどんどん上達していきます。そして、

団体でのリレーやしっぽ取りは本当に何度も実戦と話し合いを繰り返し、チーム分けから順番まで誰もが納得する形で本番を迎えています。そして、本番や結果も大切ですが、これらのプログラムの取組を通し



て、幼児期に育ってほしい10の姿のうち、「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」などが培われています。さらに、重なる部分もありますが、「やる気」「粘り強さ」「集中力」「判断力」などの非認知能力も備わってきます。幼稚園での保育・教育のねらいはまさにそこにあります。遊びや行事を通して身につけるこれらの力は数値などでは測れませんが、とても大切です。子どもたちの今後の育ちや学びに期待しています。

## ミニエピソード

先月号でもお知らせしましたが、翔鸞幼稚園の研究に関する子どもたちの「ときめき・ひら



めきミニエピソード」を通用門近くのフェンス南側に掲示しています。今回、新たに各クラスのものを掲示しましたので、ぜひご覧ください。1回目のものをじっくり読んでいただくため、裏面に掲載します。ご意見・ご感想などいただけたらありがたいです。

子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で「**京都はくくみ憲章**」を実践しましょう!

